

# MoVE

**M**omoyama  
**V**olunteer  
**E**xpress

**Vol.45**  
 2022.6.1



**2**021年4月ボランティア活動支援室は聖ペテロ館2階に移転しました。

2020年から新型コロナウイルスの感染拡大を受け、これまで当たり前に行われていた地域のお祭り、住民同士が親交を深める日常の取り組み、大規模なスポーツ大会さえ中止や延期となり、それらのイベントを支えるボランティア活動もそのほとんどがなくなってしまいました。

今回のMoVE45号では、いままで、当たり前だったことが当たり前にならなくなったこの環境下でも工夫をして活動に取り組んだ団体を紹介します。

2022年度を迎え、地域での活動も徐々に再開され、また、新たな活動が始まりつつあります。ボランティア活動支援室にもボランティア募集の情報が少しずつですが、届いています。

ボランティア活動に参加してみようという方は、気軽にボランティア活動支援室までぜひ来てください。

「ボラスト」総代表  
笠原 瑠夏さん

社会学科  
4回生

「今度は私が支える人になりたい」



ボランティア・スタッフはボランティア活動をしたという仲間が集まり、2021年度には100名を超える団体になりました。

その総代表に私になるとは思っていませんでした。選ばれた時は不安でいっぱいでしたが、断る勇気もなく。

ただ、消極的な自分を変えたいという思いを抱いていたので、「やってみるしかない！」と挑戦することにしました。

しかし、新型コロナウイルスの影響によりほとんどのボランティアが中止になってしまいました。ようやく参加できるボランティアがあっても、開催の可否が直前まで決まらず、準備をしても中止や延期の繰り返しでした。

また、実施できたとしても予定通りの実施ではなく、当日その場で臨機応変な対応をしなければならないことも多くありました。

この経験のおかげで「次はどう行動すればいいのか」を考えるようになりました。

総代表としての活動の中で多くの方から助けられました。一緒に代表となった他の学生はもちろん、他のボラストメンバーから助けられることも多くありました。また、引退した先輩方や大学の職員さんにも支えてもらいました。

皆さんからの支えがなければ私は総代表をやり遂げることができなかったと考えています。ボラストの総代表になれたことでこの大切な繋がりに気づきました。

この繋がりを大切に、今度は私が様々な人を支えられる人になりたいと思っています。

「桃パト」代表  
福岡 春輝さん

社会学科  
4回生

「子どもの安全を守る活動」



桃パトでは、地域の方と一緒に小学生の下校時の見守り活動に取り組んでいます。

子どもたちの安全を守るために「目線に合わせて」ということを心掛けて活動しています。

身長が違うので、子どもからの目線で見えるもの、見えないものという物理的な目線を合わせることも当然気にかけています。

特に、子どもたちが、周囲を見てどのようなものに気を取られるのか？どのようなものに興味を持つのか？どのようなものを怖いと感じたり、怖いことに気づかないのか？を考えて、見守り活動を行っています。

桃パトは現在60名のメンバーで活動していますが、都合によっては誰も活動できない日もあります。

活動できるメンバーがいない日も、子どもたちの学校はあります。そんな時は、地域の方に報告し、見守り活動のつながりを絶やさないようにしています。

また、活動する人数が多すぎると、調整をしないといけないことも苦労しました。

新型コロナウイルスが流行する前は、気軽に参加できていたものが、感染症対策のため、活動する人を把握して調整する必要があるため、一苦労でした。

活動を通して、調整することの大変さや仲間と役割分担していくことの大切さを学びました。